

皇族の「家族化」

- ・ 核家族としての皇太子一家

「専業主婦」・子どもを家庭で育てる

「菊タワー」の存在

- ・ 皇居の開放と再建

新しい象徴天皇制・天皇像への期待 その象徴としての皇居

宮内庁は開放案：ミッチー・ブームの時に見られた批判への対応

一方での宮殿再建案：再権威化への一里塚

- ・ 「風流夢譚」事件

深沢七郎「風流夢譚」を『中央公論』1960年11月号に掲載

→ 1961年2月 中央公論社社長嶋中鵬二宅に右翼少年が押し入る、嶋中雅子夫人が重傷

7月 「お詫び」掲載、嶋中が謝罪

- ・ 『思想の科学』自主廃棄事件（1961年）

思想の科学研究会編集、中央公論社発売の雑誌『思想の科学』「天皇制特集号」

中央公論社が販売中止を決定→残した見本を右翼側に見せたことも発覚

- ・ 美智子妃への批判

女性週刊誌を中心に登場→ブームへの飽き？

- ・「美智子さま」執筆中止事件（1963年）

美智子妃の話題が「腫れ物に触るよう」な形へ→ブームの終焉？

→再び「権威」的存在としてあらわれる象徴天皇制

まとめ

- ・核家族のモデルとしての皇太子一家
- ・「人間」「消費」という路線への反発

参考文献

- ・河西秀哉『明仁天皇と戦後日本』（洋泉社、2016年）
- ・松浦総三『マスコミの中の天皇』（大月書店、1984年）
- ・森暢平「ミッチー・ブーム、その後」
（河西秀哉編『戦後史のなかの象徴天皇制』吉田書店、2013年）
- ・河西秀哉『皇居の近現代史』（吉川弘文館、2015年「御苑を開放し、宮殿をつくる」）